（遞信省認可）　（本號六面）　明治二十三年四月廿一日　（定價金二錢）

# 時事新報

第二千六百三十一號
明治廿三年四月廿一日（月曜日）
舊暦庚寅三月三日（壬申）
日出 午前五時二分　入 午後六時十八分
月出 午前六時十六分　入 午後八時十五分
滿潮 午前六時三十三分　午後六時五十一分
（西暦一千八百九十年）

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

| 一行五號活字廿四字詰 | 一日限 | 二日以上六日迄 | 七日以上 |
|---|---|---|---|
| 一行ニ付 | 十二錢 | 十一錢 | 十錢五厘 |

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

## 時事新報

### 外債募集の風說は如何

近來世上に誰れ云ふとなく我が政府にては將に大に外債を募らんとするの意ありと云々と取沙汰するものあり其募集の次第は過般來世上の問題たりし金融切迫を救濟せんとするは勿論、且つ近年我國にては商業も進み又工業も發起して全體に通貨を要するの區域を廣めたるに然るに國中に融通する者は以前に異ならざるが故に相當の金を外國に借りて金融社會に通貨類を增し今の必須に應ぜんとするに在りなど云へり信偽は固より知る可らざれども我輩は漫に外債を恐るゝものに非ず金融切迫救濟法又諸興業奬勵法に就き果して金の入用を感じて海外に金を借るの必要あれば之を借るに臆病なるを好まざれども或人の說に云く金を借用するには其時機あり能く／＼之を見計らはざる可らず今英國倫敦よりの最近報に據るに昨今同府は例年になく金融引き締りて英蘭銀行の割引步合は年六朱、市場の步合も亦四朱半以上（英國金融社會にては中央銀行の割引步合を市場の步合に比較すれば一朱乃至一朱半を超ゆるの常なれども日本にては此割合を逆にして日本銀行の利子步合は市場の步合よりも低きものゝ如し是れ我が政府が人爲を以て低利を裝はんとするの結果なるべく此事の利害に就ては每度時事新報に記載して讀者の注意を促したり）にして斯かる折柄、倫敦に於て外債を募らんとすることもあらば相談頗る易からず利子の割合も亦高くして金策の好時節に非ざるが如し現に千八百七十三年の發行に係る我が七朱利附外債證書は百磅一株として昨今倫敦市場の相場は百零七磅內外なれば其割合凡そ年利六朱ばかりに當り假りに此六朱を土臺にして募集を爲すも其請負銀行者に手數料を拂ひ募集したる金を爲替にするか或は其他の方法を以て之を日本に輸送するに又夫れ／＼の手數料を要して結局日本着までには七朱以上或は八朱近くの高利金となるべく況んや其國債を六朱利附として之を市場に持ち出して百磅の額面が百磅に通用す可きや否は甚だ覺束なきに於てをや割合の恰好あるものと云ふ可らず左れば外債を募集するは好しと雖ども今日は之を募集するの時に非ずと云々と以上は或人の一說にして左まで珍らしき言に非ず其筋にてもいよ／＼外債と決したる上は必ず樣々の事情を探索して時機を視ることならんと雖も萬一の參考にもと思ひ叟に聞きたるまゝを記すのみ

### 美術の定義は如何

美術と云へる文字は近來一般に通用するに至りたれども此文字は日本人中に於て一個の定義を持つものあるや或は英語のファイン、アーツ佛語のボーヲユアートと云へる字義を其儘飜譯したるものなるや假りに飜譯字なりとして西洋にて所謂美術とは何を指して云ふや字書を按ずれば美術とは繪畫、彫刻、音樂、詩賦、建築術等を含包するものなりと云へど實際に於ては其意義遙に一層狹きものゝ如く繪畫の中にも彫刻の中にも美術の部類に入る可らざるものあるに非ず昨年巴里の博覽會に美術館と稱する一棟ありしが其中に陳列したる者は油畫、彫刻（完全なる發達を保ちたる男女の肖像を大理石に刻み若くはプラスターにて製したる者多し）並に建築の圖案粧飾等に限りて彼の有名なるセイブルの陶器類の如き其他金銀細工の如きは美術館にも附かず機械館にも附かず會館中央の位地に飾り現に日本より出張したる博覽會事務官が七寶若くは漆器中最も上出來の者を撰んで之を美術館に陳列することを請ひたるに此等は美術品として美術館中に飾る可きものに非ずとて一切之を受附ざりしと云ふを以て見れば佛人の所謂美術とするものは我が日本人の考に反して其意義甚だ狹きものゝ如し處で我國人の美術とはボーヲユアートの意義に同じく之を飜譯したるものなりとすれば今度開設したる我が博覽會の美術館の如きは其陳列品を吟味するに當りて西洋流の採擇法を用ふ可き筈なれども館中を一覽すれば油畫、日本畫、寫眞、織物、金石象牙細工は勿論、書も亦其中に加へて十何歲の小童がものしたる者さへ揭げ置けり左すれば爰に美術館と云ふ其美術は全く飜譯語に非ずして日本一種新工風の文字なるや既に美術館と云へば美術とは如何なる者ぞと云へる定義なかる可らず我が博覽會の美術館は如何なる定義を以て其列品を撰みたるや今日の如き機會に當りて其定義を講究し置かざれば我國にて美術品なりと思ひたる者が西洋に於ては美術中に入らずゝある西洋人は我が博覽會の美術館に入りて竊に不審を抱くもある可し遂ふに其向きの人々は必ず成見あるこそあらん我輩の聞かんと欲する所あり

## 雜報

○藤本莊太郎氏出品の堺段通　博覽會西第三本館第一部十二類大坂府の部に陳列したる堺段通の內此度堺市なる藤本莊太郎氏の出品に係るものは總て四十四品なるが就中其羊毛と牛毛を混じて織り成したる九尺四方の段通は最も念を入れて製織したるものなりと又同氏の織出したる段通は去る明治十年第一回內國勸業博覽會に於て鳳紋の賞牌を得たるを始めとし今日に至るまで賞金及び賞狀牌を受けたること二十八回にして販賣高も追々增加し昨二十二年中には八萬二千五百疊價金十萬七千二百五十圓餘を賣出したりといふ抑も堺段通なるものは全く右藤本家の創業にて今を距ること六十年前天保二年の五月堺車之町に於て絲物業を營み居たる藤本庄左衛門氏（今の藤本莊太郎の祖父）が支那製の敷物及び肥前の鍋島段通等に模擬して製織したるより起れるものなるが爾後嘉永五年庄左衛門氏沒し長子長次郎氏繼ぎ安政五年長次郎氏死し今の藤本莊太郎氏亡父の業を繼ぎて營業したりしも創業以來日尙は淺く人智未だ開けざりしを以て製法頗る粗拙に品位亦た善良ならざりしが故に需用產額極めて少なく以て土地の一產物と爲すに足らざりしかば同氏は其製織法を改良して販路を擴張するの必要を悟りて之れが計畫を爲したるも當時維新の騷亂より引續きて舶來品の盛んに流行する世となりしかば內國製の物品は善惡に拘はらず需用する者なく皆洋品に壓倒せられて多年の計畫も空しく畫餅に屬し素志を逹すること能はず已むことを得ず唯苦慮の裡に歲月を送り居たりしに幸に去る明治十年二月大和畝傍山の御陵へ行幸の盛典ありたれば同氏は自家に於て製織したる堺段通を縣廳に呈出し忝なくも天覽に供するの榮を得、續て同年第一回勸業博覽會の開設に際し數十品を會場に陳列せしかば漸く世人の知る所となりて購買者を增し又同十一年外國貿易商の手を經て米佛兩國に輸出し爾來度々內國各地の博覽會共進會等に出品して專ら販路の擴張を圖りしかば次第に內外人の需用を增加し終に今日の成績を見るに至りと因に記す現今は同業者七十三名工場七十五個所職工千四百餘人ありといふ

○館內素通の所見　（一昨日の續き）

兵庫縣の出品は前日の分にて見盡したりと云ふにあらずまだ／＼館の中央に押擴がりて種々雜多の品物多き中にも一際目立ちて見えしは神戶港池田淸右衛門氏出品の錦出染付羅漢の大花瓶（代百七十五圓）西洋人あらでは買ふものなさそうなり櫻田善九郎氏出品玲瓏巖に鷄の置物岩は左迄の事なきも三羽の鷄眞に迫りて中々の出來なり其下に並べたる艶白彩色平鉢、菓子鉢一對も好手あるべく北條右衛門氏出品錦染付珈琲道具一組（八十圓）は桐の箱に仕舞込みて內より燦爛たる金光を外に放つ樣有難きやうなり左れど外の裝飾を取り退けては如何なるあるべき淡路燒揃　色の地に蘆雁の模樣ある喇叭形花瓶（三十五圓）喇叭を吹かずとも隨分ゴーカシの利くやうなれど雁の多過ぎてゴタ／＼然たる樣見苦しと云ふものあり夫れとも其處が喇叭の吹き處か色畫又は錦手の窓緣（五圓と七圓の二個）目に附かぬものなけれど其影に隱れたる器物の迷惑は左こそと察せらる池田淸右衛門氏出品薩摩燒錦出染付皿五十五圓より二十八圓の三品は濃淡の別こそあれ何れも精巧と云ふの外なく其他同燒諸種の小瓶（四十八圓より二十八圓迄）茶椀（二十圓より二十六圓迄）も見所あれど此の些やかなる燒物一つが二十何圓とは偖も／＼と驚く素人も多からんか續て播州明石の寺岡源次郎氏出品の玉子燒珈琲茶碗一組四圓と云ふを見たらば更に又割安なるに驚くべし左れど品柄左迄惡しとも思はれず今一層勵にて製造高さへ增したらんには縣下一廉の產物たるを左迄に難きにあらざるべしと割安物に肩を入れたる見物人もありし其他有馬郡三田燒七メ靑磁も出品澤山にて見るべきもの無きにあらねど先づ直段の大略を記せば小形[illegible]組一圓五十錢、平鉢九十錢、茶漬茶碗二十五錢、丼鉢大一圓、中四五十錢、植木鉢極上染付二圓、水鉢五十錢、火鉢一圓十錢、透し香爐一圓五十錢、透し靑磁花瓶三圓七十五錢等何れも日用向き多けれど華美に走るの癖ある都人には不向きかと思はる播州吳洲燒は出品少なけれど雅にして一種の妙味あり夫れより長崎縣に移れば同縣も有名の松浦燒とて陶器の名產地なれば出品も多く陳列法も他縣と趣を異にし第一に上波佐見次に稗木場山、江永山、木原山、三川內則ち松浦の本場と夫れ／＼順序を逐ふて一箇所の產物を一所に集めて觀者の便利を計りたる處よし先づ全體に見渡せば上波佐見は五箇山中の下位にあるものゝ如く三川內山即ち本場松浦最も精巧なるが如し左れど別に是れと云ふ程の逸品もなき樣なれば一箇所／＼に付代價の大概を云はんに上波佐見の部にては大德利五六十錢、小德利廿錢、見本皿一束十六錢丼四十五六錢、湯呑一個九厘、茶漬茶碗一束二十五六錢より上五十五六錢茶道具一組（茶壺、急須、水注、湯冷、茶碗十人前）二圓五十錢、五寸皿二十三錢位にして何れも安直ものゝみあり稗木場山に至ては品位もツクト進みて藍の工合見るべきもの多く蒸茶碗一束九十七錢、茶漬茶碗一圓より一圓四十錢極上二圓八九十錢より三圓迄煎茶々碗七十三錢、小野道風の模樣ある染付花瓶一對八圓位、江永山の部に至るも品位先づ相敵して湯呑廿個廿八錢、茶漬茶碗一圓五十錢、外蓋蒸茶碗二圓より二圓四十錢、水注一圓四十錢、中形小霜茶碗一圓五十錢煎茶々碗小形並六十錢位木原山に移りて丸蓋物二十四錢湯呑十八錢、吸物茶碗一圓三十錢、茶漬茶碗一圓十錢より一圓三十錢珈琲茶碗（一ダース）一圓六十錢筆筒五十錢明山鉢一圓五十錢飯櫃二圓五十錢花瓶一對三圓より九圓位以上は左迄優劣のあるべしとも思はれざれど三川內山即ち本場松浦に至ては更らに一步を進めて地合も麗しく藍も秀で一層の見榮あり茶漬茶碗一束四圓五十錢より五圓まで小形一圓二十錢急須一個二十八錢より六十錢、丼鉢三ツ組三圓位として中にも菊形丼十人前五圓は更らに妙なり壺形の花瓶（二十五圓）白リンズ切子花瓶（十圓）富田熊三郎豐嶋政治兩氏出品の白地雲龍の共色模樣花瓶一對三十圓は尋常なれど染付竹林七賢の大火鉢は見事なり前に並べたる菊盆形花瓶（十五圓）一種風變りにて面白く又別の飾箱中に陳列ある富田熊三郎豐嶋政治郎兩氏出品雲龍共揃櫻花瓶（三十圓）香爐（十二圓）菊透し花瓶十二圓蟲集せ花瓶卅圓は餘程手の込みたる出來なり唐子の文鎭（一個七十錢）に至ては頗る手際よく假令へ買はざる迄も爭ふて見たがる品なり因に記す一昨日の記事中盃の字は盂の誤植、異砂の振假名は術又十八日の記事中右の帆木綿とありたるは明石の帆木綿の誤なり（以下次號）

○宮城縣衆議院議員撰、被撰人の數　宮城縣に於て各撰擧區內の衆議院議員撰擧人幷に被撰人の數は左表の如くなりと

| | | 撰擧人 | 合計 | 被撰人 | 合計 | 議員定員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第一區 | 仙臺市 | 二〇八 | 一、九一九 | 二〇〇 | 一、八四四 | 一 |
| | 名取郡 | 九一〇 | | 八九〇 | | |
| | 宮城郡 | 七八二 | | 七五四 | | |
| 第二區 | 柴田郡 | 二二二 | 八二一 | 二一三 | 七八八 | 一 |
| | 刈田郡 | 一二四 | | 一一八 | | |
| | 伊具郡 | 二五〇 | | 二四一 | | |
| | 亘理郡 | 二二五 | | 二一六 | | |
| 第三區 | 黒川郡 | 五六八 | 二、四四八 | 五四四 | 二、三一四 | 一 |
| | 加美郡 | 三四一 | | 三二六 | | |
| | 志田郡 | 五四一 | | 四八六 | | |
| | 玉造郡 | 三五五 | | 三七〇 | | |
| | 遠田郡 | 六四三 | | 五八八 | | |
| 第五區 | 桃生郡 | 四三四 | 七一〇 | 五〇五 | 七六九 | |
| | 牡鹿郡 | 一五七 | | 一五三 | | |
| | 本吉郡 | 一一九 | | 一一一 | | |

○宮城縣貴族院議員互撰人　宮城縣にて多額の直稅を納むる十五人の姓名は左の如くなりと

| 納稅額 | 郡市 | 姓名 | 職業 |
|---|---|---|---|
| 二、二四二、二〇二 | 桃生郡 | 齋藤善右衛門 | 農 |
| 一、七三七、二二七 | 仙臺市 | 遠藤敬止 | 商 |
| 一、二五七、四六七 | 栗原郡 | 高橋儀右衛門 | 商 |
| 一、二〇七、九四二 | 志田郡 | 手嶋提八郎 | 商 |
| 九七四、八一五 | 栗原郡 | 大庭長九郎 | 農 |
| 七五八、二一九 | 柴田郡 | 飯淵七三郎 | 商 |
| 七五〇、一九五 | 栗原郡 | 熱海孫十郎 | 非職 |
| 六九七、四七六 | 仙臺市 | 金須松三郎 | 商 |
| 六八六、六六三 | 刈田郡 | 米竹淸右衛門 | 商 |
| 六五一、五三七 | 仙臺市 | 伊澤平藏 | 商 |
| 六四三、六〇七 | 仙臺市 | 佐々木重兵衛 | 商 |
| 五九九、八五二 | 遠田郡 | 菊池辨藏 | 商 |
| 五七一、二〇五 | 登米郡 | 佐藤喜三郎 | 商 |
| 五一七、〇八二 | 栗原郡 | 千葉理助 | 農 |
| 五〇〇、五四九 | 伊具郡 | 加川直助 | 商 |

○金子氏の一行　歐洲巡廻中なる金子堅太郎氏の一行は來る五月中旬歸朝するよし

○東北十五州會　東北十五州の大同派は來月十五日を期して第四回の大會を富山縣下に開く筈なるを以て準備の爲め富山縣下五郡內の大同派の有志者は去る十日中越俱樂部に會し相談する處ありしが上下新川婦負三郡の同派員は會場を富山市と定むべしと說き礪波二郡の人々は高岡に於てすべしと云ひ張りし結局富山市に開くことに決し各郡よりの世話役をも撰びしとなり

○一府十縣警察聯合會議　神奈川縣警察本部の催しに係る東京、千葉、茨城、埼玉、群馬、栃木、新潟、長野、靜岡、山梨の一府十縣の警察聯合會議は今二十一日より開くよし

○飲料水試驗　東京府にては今二十一日より府下飲料水の試驗を行ふよし

○淸水谷のつゝじ　麴町區紀尾井町字淸水谷なる舊右大臣大久保公の紀念碑建設の地所は左まで廣からざれども構內には最と振りよき松柏を植込み其上小池もありて風致を添へまた咲殘る櫻の賑ひも一層なるが昨日よりの暖氣に碑の裏手ある丘のつゝじは既に咲出し恰も毛氈を敷詰し如くなる中に黃白打交り美くしき事云はん方なく殊に同所は一寸人家を離れし閑靜の地なれば黃鳥の聲も時に聞え幽趣極りなきより本年は掛茶屋を設け樹々の許に椽臺を置く抔殆んど小公園の光景は目下問ひ來る遊人も多しとなり

BUSINESS PRINCIPLES.

She: He is a brilliant preacher, but rather too worldly, I think. The man who works for the Lord expects to get paid as well as the rest of you.

He: Yes, and he doesn't wait till he gets to the next world to [illegible] it, either.

商賣主義

女　彼の和尙さんは說敎が上手ですが餘り浮世臭う御在ます救世主の爲めに働いて居る人が我々凡夫と同じ樣に金を拂ふて貰はふと思ふて居るとはあんまりぢやァありませんか

男　左樣で御在ますネシテ彼の和尙さんは其報酬を取るに彼の世まで待とふともしません